

社会福祉法人光朔会 2010（平成 22）年度運営方針

基本方針

イエス・キリストによって示された愛を入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、愛と奉仕に満ちた施設、グループホームおよび保育園を実現し、神の栄光と高齢者の福祉、子供達の未来のためにつとめる。

運営方針

1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能]

オリンピア神戸北保育園および高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西を開所し、特別養護老人ホーム・デイサービス・サテライトデイサービス・居宅支援事業所、グループホームオリンピア灘・高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫・地域包括支援センター・オリンピア都保育園において多機能で総合的な福祉活動を行う法人を目指す。

2. 新しい介護への転換 [小規模]

ユニットケア・グループホームケアの徹底をはかり、小規模なグループで一人一人を大切にした個別対応の福祉活動を展開し、安全を確保しつつ、衣食住の充実をはかり、尊厳と生き甲斐のもてる生活を送っていただく。

3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着]

高齢者の理解、口腔ケア、LD（学習障害）児の理解を深めるための講演会を開催し地域に貢献する。

4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流]

日本聖公会、聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸聖ミカエル教会、聖愛教会、YMCA、大阪大学大学院、ロータリークラブ、インターアクトクラブ、ワイズメンズクラブ、自治会、社会福祉協議会、病院、医師会、歯科医師会、行政などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。

5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉]

毎朝の礼拝、職員礼拝の充実をはかり、キリスト教行事（クリスマス、イースター、ペンテコステなど）を実施しキリスト教の理解を深める。

6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上]

職員、パートタイマー、ボランティアを確保し、内部研修の実施と外部研修の活用等によって、資質の向上を図る。また、介護実習生、教育実習生、トライやるウィーク生を積極的に受け入れ教育し、社会的貢献を果たす。

7. 海外との交流 [国際活動]

ヴェクショー大学（スウェーデン）をはじめとする海外の機関との協力体制を構築し、スタッフ交換研修を実施するほか、海外からの研修、見学等を積極的に受け入れることにより、世界で活躍できる法人を目指す。

8. 健全な財政運営 [健全財政]

入りをはかり、出を制す。収入・支出の見直しを実施し、健全な財政運営を行う。

社会福祉法人光朔会 2010（平成 22）年度事業計画（案）

特別養護老人ホームオリンピア

特別養護老人ホーム

事業目標

1. パーソンセンタードケアを実践し、利用者一人一人に寄り添う介護を行う。
2. 地域に根ざした施設づくりを行う。
3. 事業所内外の連携を強化し、質の高いチームケアを提供する。
4. 財政基盤の確立を図る。
5. 「顔」の見える関係を築く。

事業計画

1. パーソンセンタードケアを実践し、利用者一人一人に寄り添う介護を行う。
 - 利用者個別の生活歴や残存能力を考慮し、充実した日常生活の場を提供する。
 - 利用者・家族のニーズを反映した自己実現のためのケアプランを作成し、個別対応を基本とした介護を実施する。
 - 利用者一人一人との関わりを重視した、寄り添う介護を行う。
 - 施設内の活動にとらわれず、生活の範囲を拡げる。
 - 生活空間を意識した、「家」造りを行う。
 - 利用者が主体的に関わることの出来る行事を企画・実施する。
2. 地域に根ざした施設づくりを行う。
 - 入居者が地域住民の一員として生活できる関係造りを行う。
 - 地域、他団体との協力関係を強化し、地域ぐるみの高齢者ケアを展開する。
 - 地域の行事などに積極的に参加し、地域住民を巻き込んだプログラムを行う。
 - 地域関係者、近隣住民等の見学・相談を随時受け入れる。
 - 福祉の啓発活動として、近隣地域のコミュニティ造りを援助する。
3. 事業所内外の連携を強化し、質の高いチームケアを提供する。
 - 「オリンピアの理念」「オリンピア三つの約束」を実践する。
 - 事業所内の連携を強め、質の高いチームケアを提供する
 - 施設内研修の充実を図り、意識向上を図る。
 - 外部研修にも積極的に職員を派遣し、常に新しい知識と技術を取り入れる。
 - スタッフ一人一人の課題を明確にし、個別のスキルアップを図ることで、チームとしてのスキルアップを行う。
 - 専門職意識を高め、接遇態度のさらなる向上を目指す。
 - 各種資格・技能取得のためのバックアップ体制を作る。

○ボランティア・実習生の受け入れを通し、社会貢献を果たすと共に、スタッフのリーダーシップを向上させる。

4. 財政基盤の確立を図る。

- 年間宿泊率99.0%を目指し、収入の増加を図る。
- 改正介護保険法をしっかりと把握し、サービスの充実を図ると共に、取り得る各種加算を漏らさず取る。
- 意味あるものにコストをかけ、無駄を無くすことで収支のバランスを取る。
- 入所待機者、居宅介護支援事業所と連絡を密にし、空床の解消を図る。
- 医療機関との連携を充実させ、入退院時の調整ならびに利用者の疾病管理を行う。

5. 「顔」の見える関係を築く。

- 入居者・利用者が安心して生活できる環境（人・もの・雰囲気）をつくる。
- 説明責任を果たし、より強固な信頼関係を築き、家族との協働を図る。
- より積極的な家族参加が出来る体制作りを行う。
- 利用者の尊厳に配慮し、身体拘束を撤廃する。
- 事故やヒヤリハットを事例検討し、安全で自由な環境になるよう改善する。
- 「傾聴・受容・共感」することを大切にし、利用者の心の声に耳を傾け、それに応えていける関係作りを行う。
- 笑顔あふれる関係作りを行う。

デイサービス

事業目標

1. のべ利用者数6940人（平均27.0人/日以上）を目指す。
2. 個々の介護・介護予防計画、目標に沿って通所ケアの責務を果たす。
3. 介護職員意識の向上、進歩ある業務内容に努めケア全般に生かす。
4. ボランティア・実習生・見学者を積極的に受け入れ、相互の向上、地域交流を深める。

事業計画

1. のべ利用者数6940人（27.0人/日）を目指す。
 - 予算計画に沿って、安定した経営の中、介護サービスを最大限に行う。
 - 事業総収入計画66,000（千円）を目指す。
 - ニーズ多様化ある新規希望者の受け入れを積極的に行う。
2. 利用者の自立支援に努め、側面からの援助をする。
 - 個々の介護・予防計画、目標に沿って通所ケアの責務を果たす。
 - 各担当機関との連携。利用者の情報を把握し、丁寧なケアにつなげる。
 - 多様なプログラムによって、幅広く利用者の身心機能を助長する。

○安全管理、健康管理の促進。

3. 介護職員意識の向上、質の高い援助を目指す。

○ケア、業務内容およびリスクマネジメントの情報共有を徹底。

○新人教育、育成とともに職員全体の意識を高める。

○利用者、家族のニーズをつかむ。

○他施設との研修会、職員交換研修を通して情報交換。

4. 喜びの多いデイサービスとして、各方面の協力を得て相互向上を図る。

○ボランティア・実習生・見学者を積極的に受け入れ、相互向上、地域交流を深める。

○他施設、介護体験の一般学生などの積極受け入れ、実習指導、意見交換の実施。

○保育園、幼稚園、小学校の子供たちとの交流を深め、相互の活性に努める。

○トライやるウィーク、地域生徒の受入、社会学習協力。

○コンサート、演芸、慰問ボランティアなどを受入れる。

○介護者教室の実施、一般の方、関連機関へのご案内。

○保険外サービス（外出プログラムなど）を取り入れ、地域参加する。

サテライトデイサービス

事業目標

1. 年間延べ利用者数 2,650人（平均11.0人/日）を目指す。

2. 地域におけるオリンピアの知名度、評判の向上を目指す。

3. 質の高い介護予防プログラムを提供する。

4. 利用者の声を反映したプログラムを構築する。

事業計画

1. 年間延べ利用者数 2,650人（平均11.0人/日）を目指す。

○総収入計画：¥11,000,000

○介護予防プログラムを上限(月当たり15日)まで実施し、介護予防加算による収入を得る。

○既存利用者の健康を維持する事により、出席率の維持・向上を目指す。

2. 地域におけるオリンピアの知名度、評判の向上を目指す。

○生きがいデイサービスといえどオリンピアを連想して頂ける様に、地域の要望に応じて充実したサービスを提供する。

○L S Aや地域の自治会、民生委員を通じて、オリンピアの活動を広く知って頂く。

3. 質の高い介護予防プログラムを提供する。

○現在、「介護予防型デイサービス」と「閉じこもり防止型デイサービス」の2つのプログラムを実施している。介護予防プログラムについては、①運動器の機能向上・②栄養

改善・③口腔機能の向上、の3つを実施している。各プログラムにおいて、専門職を中心に内部研修を通じて知識を深め、質の高いプログラムを提供する。

4. 利用者の声を反映したプログラムを構築する。

- 自立度に関わらず楽しめるプログラムを検討・実施する。
- 定期的にアンケートを実施し、利用者が望むサービスを職員へと伝えやすい環境にする。
- 個別・集団のどちらにも対応出来るレクリエーションを提供する。

居宅介護支援事業所

事業目標

1. 財政基盤の確立。
2. 認定調査員は専任とし、認定調査の資質向上を図る。
3. 質の高い居宅介護支援をする。
4. 地域包括支援センターから委託を受けて介護予防支援ケアマネジメントを行う。
5. 介護支援専門員の資質向上を図る。
6. 介護保険サービス第三者評価に向けて自己評価を行う。

事業計画

1. 財政基盤の確立。
 - 要介護者ケアプラン件数月115件、要支援者プラン件数月15件確保する。
 - 新規認定調査実施事業者が指定市町村事務受託法人となっているため新しい利用者の確保が困難と思われる。
 - 申請代行については指定居宅支援事業所にて行うことが出来るため、新しい利用者の確保に向け積極的に申請代行を行う。
 - 要支援1・要支援2の介護予防プランの委託を受けてケアプラン数の確保を図る。
2. 認定調査員は専任とし、認定調査の資質向上を図る。
 - 認定調査員を専任とする。
 - 調査に関する研修会は積極的に参加する。
 - 調査票などの管理に関しては慎重に取り扱う。
3. 質の高い居宅介護支援をする。
 - 居宅サービス計画を利用者に交付する。
 - 月一回は利用者の居宅を訪問し、訪問記録を作成する。
 - 月に一回、居宅サービス計画の実施状況を把握し、モニタリング記録を作成する。
 - 介護認定更新時や要介護認定の変更があった場合等において、ケアカンファレンスを開催する。
 - 医師との連携を図り、利用者にとって必要な援助を考えていく。

- サービス提供事業所との連携を密にし、利用者の状況把握に努める。
- 家族との連携を密にし、利用者にとって必要な援助を考えていく。
- 介護サービス以外の社会資源の活用もプランに組み入れていく。
- 在宅での生活が安全に継続出来る様、援助し見守っていく。

4. 地域包括支援センターからの委託を受け介護予防ケアマネジメントを行う。

- 介護予防支援専門員1人当たりにつき8人を限度に介護予防支援に添ったケアマネジメントを行う。
- 地域包括支援センターなどが実施する事例検討会などに参加していく。

5. 介護支援専門員の資質向上を図る。

- 研修会に積極的に参加する。
- 情報の収集に努めプランに生かす。
- 社会資源を活用していく。
- 介護予防・自立支援の観点に立った地域包括支援センターとのネットワークを活用していく。
- 利用者との十分な意思疎通に基づく適切なケアマネジメントの実施を前提としてサービスの質・機能などに応じたプロセス成果を積極的に評価する。

6. 自己評価を行う。

- 改善の必要性のある項目（自己評価シート）に関しては改善に向けて取り組んでいく。

地域包括支援センター

事業目標

1. 高齢者の相談窓口として、位置付けの充実
2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開
3. 財政基盤の確立
4. 職員資質の向上

事業計画

1. 高齢者の相談窓口として、位置付けの充実

- 公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体と構築してきたネットワークを生かし、多職種協働により、高齢者をはじめとする地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりを継続していく。
- 専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。
- 地域からの様々な相談（1ヶ月あたりの相談件数 平均400件）に柔軟に対応していくよう、ネットワークを最大に生かした、関わりを継続していく。

2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開

- 神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を継続していく。
- *総合相談支援業務，権利擁護業務，ケアマネジャーや関係機関との包括的・継続的マネジメント事業，地域見守り活動推進事業の体制の強化
- 民生委員や友愛訪問奉仕員等の地域のボランティアとの繋がりを通して、地域包括支援センターとしての専門的な位置付けを確保していく。
- 認知症の講演会や介護者教室等、法人独自の企画・運営を継続していくことにより、開かれたセンターとして、地域密着型を実践していく。
- 困難事例への積極的な関与により、住みやすいまちづくりに積極的に携わっていく。

3. 財政基盤の確立

- 2010年度事業所予算（27,891千円／年）を達成するよう努める。
- 予防支援事業 介護予防指定事業所として、介護予防プラン（210件／月）の実施と居宅介護支援事業所との連携体制の確立。
- 介護予防評価分析事業情報収集業務の実施。
- 介護予防普及啓発事業の実施。
- 予防支援事業 特定高齢者施策の実施。

4. 職員資質の向上

- 新旧職員の相互の連携により、客観的な視野を育み、多角的な実践を通して、各人の更なる資質の向上を図る。
- 神戸市主催の定期的な講演会並びに研修会の企画・運営に積極的に携わることにより、神戸市の高齢福祉に関する最新施策や社会資源に関する情報を把握する。定期的な連絡会への参加と学習会を自主運営することにより、ネットワークを拡充していく。
- 法人のスケールメリットを生かした取り組み、特に、地域へ認知症についての情報を発信していくことにより、専門職の資質の向上を図る。

グループホームオリンピア灘

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 利用者の生活の質の向上
3. 地域との交流
4. 見学者・実習生の受け入れ
5. スタッフの資質向上

事業計画

1. 財政基盤の確立

- グループホームの収入の安定を計る。
- デイサービスの1日平均利用者数を前年度より上げる。

2. 利用者の生活の質の向上

- 「生活の主人公」である利用者おひとりおひとりが、あらゆることにチャレンジ出来るよう、お手伝いをする。

3. 地域との交流

- 常に地域に情報を発信しながら「地域に開かれたグループホーム」を目指す。
- 地域の行事に積極的に参加し、交流を図りながら認知症や認知症ケアへの理解を広め地域の一員としての役割を果たす。

4. 見学者・実習生の受け入れ

- 利用希望者の見学を積極的に受け入れる。(他事業所ケアマネへのPR)
- 実習生、ボランティアを積極的に受け入れる。

5. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念、3つの約束」の実践

- 「オリンピア灘の理念、3つの約束」をスタッフ全員が共に学び確認し合える場を定期的に確保する。
- 認知症ケアを理論の面から学んだ上で実践に生かせるよう、スタッフの習熟度に合わせた内部研修、外部研修に積極的に参加する。
- 資格試験を積極的に受ける。
- スタッフ全員が市民救命士講習(心肺蘇生法)を受講する。
- 接遇、マナーの向上に努める。(敬語による会話の徹底)

認知症高齢者グループホーム

事業目標

- 1. 財政基盤の確立を図る**
- 2. 入居者の生活の質の向上**
- 3. 地域との交流を図る**

事業計画

1. 財政基盤の確立を図る

- 年間稼働率97.5%を目標とする。(09年度実績97%台の予定)
- 入居申込書の更新を定期的に行い、退居者が出た後の、空室期間を最小限にする。
- 入院者が出た時は、本人・ご家族・担当医師と連絡を密にし、速やかな対応を行う。

2. 入居者の生活の質の向上

- 「チームアセスメント」によるケアプランを着実に実現し、その人らしい生活のお手伝いをする。
- 定期的にフロアカンファレンス及びリーダーカンファレンスを行い、常にケアの見直しを行う。
- 入居者おひとりおひとりの持てる能力を最大限に発揮して、様々なことにチャレンジしていただけるようお手伝いをする。

3. 地域との交流を図る

- 2ヶ月に1度の運営推進会議を通して地域の代表の方々との情報交換を行う。
- 日々の散歩、外出、地域商店街への買い物、地域の行事への参加を積極的に行い、「地域の中で生活する」ことを実践する。
- 認知症と認知症ケアへの理解向上に努め、地域の一員としての役割を果たす。

認知症高齢者デイサービス

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 質の高いサービスの提供

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間利用平均1.6人/日を目標とする。(09年度実績1.3人/日の予定)
- 居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンターへ定期的に情報を発信し、安定して利用者を確保できるよう継続的にPR活動を行う。
- 「コーポレート・アイデンティティ」を全職員で共有し、常にひとりひとりが情報の発信源となるような体制を目指す。
- 見学、体験利用者を積極的に受け入れる。

2. 質の高いサービスの提供（利用者に1日1日を楽しんでいただく環境作り）

- 利用者おひとりおひとりが、これまでの趣味や特技を更に深め、楽しみ続けられるような環境を整える。
- グループホームの入居者と一緒に、家事や外出など様々な事にチャレンジしていただけるようお手伝いをする。

事業目標

1. 「小規模多機能ケア」の確立
2. 広報活動の強化
3. 財政基盤の確立
4. 新規事業の開始
5. ケアの質の向上

事業計画

1. 「小規模多機能ケア」の確立

利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することが小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」を確立する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより複数サービス利用者の増加につなげるほか、各ユニットがひとつの「家」としてのビジョンを持ち、ユニット間の交流を図る。

2. 広報活動の強化

「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌等各種媒体を利用したPR、館長による外部での講演活動、「Salon de l'Olympia」など地域における行事への参加等とともに、実習生・ボランティアの受け入れも積極的に行う。また、地域交流スペース「Cafe Olympia」を活用し、地域に開かれた施設を目指す。

3. 財政基盤の確立

安定した経営を行うために、財政基盤を確立する。また、制度改正などに際して安定した収入が確保できるように、徹底して情報収集を行い、速やかな対応を行う。具体的数値に関しては各部門の事業計画を参照。

4. 新規事業の開始

ニーズや社会の情勢に応じた新規事業開始の可能性を検討する。人材の確保、マーケティング調査を行うとともに、プロジェクトチームを発足させ、具体的なスケジュール調整を行う。

5. ケアの質の向上

従来の大規模・画一的な施設ケアとは一線を画した、個別ケア・チームアプローチによるこれからの高齢者ケアのあり方を実現することにより、入居者のADL状況・認知症の改善を図る。目標達成のために、①高齢者ケアに関する理論的かつ実践的な研修をスタッフに対し定期的に行い、スタッフの高齢者ケア技術の向上を図ると共に、②定期的なユニ

ットカンファレンスおよび全体でのリーダーカンファレンスを行い、日々変化する個々の事例の状況に対応する。

認知症高齢者グループホーム

事業目標

1. ケア理念の遵守－「生活の主人公は利用者ご本人です。」
2. 財政基盤の確立を図る。
3. 地域に密着した運営を行う。
4. スタッフの資質向上をめざす。(プロ意識の育成)

事業計画

1. ケア理念の遵守－「生活の主人公は利用者ご本人です。」
 - ユニットのビジョンを明確にし、「生活の場」にふさわしい環境作りを行う。
 - 入居者おひとりおひとりを「よく知る」ことにより、持てる能力を最大限に発揮しながら生活をしていただくことができるような「お手伝い」をする。
 - グループ・ダイナミックスの効果を生かし、入居者おひとりおひとりに役割や責任をもってもらい、「生活の主人公」としてふさわしい生活を実現する。
2. 財政基盤の確立を図る。
 - 年間稼働率97%を目標とする。
 - 利用収入目標 9,460万円(介護保険収入6,110万円・利用料収入3,260万円・雑収入90万円)とする。
3. 地域に密着した運営を行う。
 - 運営推進会議の内容の充実を図る。
 - 地域各種団体との連携をはかり、地域行事等の参加を積極的に行う。
 - 地域の学校・幼稚園等との交流を図り地域に根ざした、活動をする。
4. スタッフの資質向上をめざす。(プロ意識の育成)
 - いつも笑顔であいさつをし、気持のよい言葉づかいをする。
 - スタッフが、自分自身で健康管理を行い、やる気と希望の持てる職場づくりをする。
 - スタッフのレベルに応じた内部研修を定期的を実施し、随時受講する。
 - 外部研修にも積極的に参加する。

ショートステイ

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. サービスの向上
3. スタッフの資質の向上
4. 地域に密着した運営

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間利用率98%を目標。
- リピーター、長期利用者の獲得と維持。22室中、16室を長期利用者として利用率の安定を目指す。
- 法人内での入所待ち、入居待ちのご利用者の獲得と維持。入所部門への繋ぎを心がける。
- 居宅介護支援事業所との連絡を定期的に行い、ショートステイ部門だけでなく、法人内の各部門と連携をとった相乗効果を狙う。
- 新規利用者を定期的に獲得し、ご利用待ちをキャンセル待ちとする。その備えから急な入院やキャンセルに対応する。

2. サービスの向上

- リーダー会、ユニットカンファレンスを定期的に行い、利用者おひとりおひとりに合わせたケアを実現する。
- 定期的なケアプラン作成とその遵守。
- ご利用者、ご家庭からの希望に対して随時対応する。安心で安全な生活を提供する。
- 各ユニットでビジョン、毎月の目標をたて、より良いサービスを追求する。
- 外出の機会を提供し、気分転換をしていただく。歩行など、その方の持っておられる力を大切にされたケアをおこない、生活の質を高める。

3. スタッフの資質の向上

- 光朔会の理念を学び遵守する。
- 内部、外部の研修に参加し専門知識の向上を目指す。各資格にチャレンジし成長する。
- 緊急時の対応など普段から確認し、急変時には各職員が連携をとり冷静で的確な対応をする。
- 全スタッフが光朔会の一員であることを自覚し、プロとしての責任を持って行動する。

4. 地域に密着した運営

- 地域の商店やイベントを利用し、地域の方々との関係を築いていく。
- Salon de l'Olympiaなどの行事に地域住民をご招待し、地域の方への開かれた運営を目指す。
- ボランティア、実習生を積極的に受け入れ外部からのマンパワーを活用する。

デイサービス

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 地域密着
3. 人材育成

事業計画

1. 財政基盤の確立

○2010年度予算数値達成へ向けて利用者募集活動を行う

a. 具体的な施策

- ・定期的な公開行事実施による施設認知度の向上を図る
- ・パンフレット等情報発信資料の見直しによる発信力の強化

b. 具体的な目標数値の設定（単位：千円）

4月	3,082	10月	2,982
5月	2,982	11月	3,082
6月	3,132	12月	2,934
7月	3,006	1月	2,787
8月	3,082	2月	2,661
9月	2,982	3月	3,256

2. 地域密着

○施設内へ気軽に入れる環境の構築

a. 具体的な施策

- ・「Salon de l'Olympia」活動の継続展開
- ・2ヶ月に1回、演奏会や文化教室を開催し、地域コミュニティの拠点とする
- ・介護者支援としての知識、技術等の広報活動を行う
- ・地域支援活動と連携し、地域福祉の拠点作りを行う

3. 人材育成の強化

○ケアワーク能力の育成

○介護保険制度の徹底理解

○介護技術の熟達

a. 具体的な施策

- ・定期的な内部勉強会の開催
- ・外部研修への参加奨励（研修情報の提供）
- ・自己啓発活動の奨励
- ・資格取得活動の奨励（介護福祉士、社会福祉士等）

b. 外部からの刺激

- ・交換研修の受け入れ

- ・ ネット活用による最新情報の収集
- ・ 事業所指定更新に向けた対策の早期実施

居宅介護支援事業所

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 新規利用者の獲得
3. 外部との交流
4. 介護支援専門員としての資質の向上
5. 法令遵守

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 2010年度事業所予算を達成するよう努める。

2. 新規利用者の獲得

- 新規利用者数獲得に努める。
- 現在要介護者数46名を48名に引き上げる。
- 介護予防委託件数上限（ケアマネ1人8件）まで受託する。

3. 外部との交流

- 地域のあるすこ連絡会、兵庫区ケアマネジャー連絡会等に可能な限り参加し、他のケアマネジャーとの交流の機会を確保し情報収集に努める。

4. スタッフの資質の向上

- 外部、内部で実施される研修に参加し最新の介護保険に関する情報収集とケアマネジメントにおける知識の向上を図る。

5. 法令遵守

- 利用者の心身の状況等に応じて適切なプランを提供し、その提供するプランを自己点検することによって事業運営の向上に努める。

保育園

事業目標

1. 保育の理念・計画（新保育指針施行）
2. 保育者集団の育ち
3. 保育参加
4. 園庭開放
5. 障がい児保育について
6. 待機児童の対応
7. 安全管理の周知徹底
8. 地域に根ざす
9. 実習生・ボランティアの受け入れ
10. 連盟の子育て支援への参加

事業計画

1. 保育の理念・計画

- キリスト教保育の遵守をする。
- 子どもの権利と幸福と親の希望を見据える目を持つ。
- 子どもが健康な心と身体で楽しく過ごす事が出来るように心掛ける。
- 保育園の保育理念の確認と共通理解を持つ。
- 新保育指針施行に伴い指針の共通理解を持ち、保育内容の質を高めていく。

2. 保育者集団の育ち

- 自然の移り変わりを敏感に捕らえる感性を磨く。
- 日常の生活を通して子どものモデルになる。
- 専門性の自己研鑽—積極的な研修参加・技術の向上を目指す。
- 子どもと遊ぶことが楽しいと思える保育者になる。
- キリスト教保育の実践者としての自覚を持つ。

3. 保育参加

- 誕生会の参加だけでなく通常の保育に参加をしてもらい子どもの様子、他児との関係性などにも気づいてもらうようにしたい。家庭保育の参考になるように話し合いも多く持つ。育児相談も随時行い、家庭と共に子育てを行う。

4. 園庭開放

- 参加人数が増えてきた。地域の子育ての発信場所として子育ての方法や工夫を提供していく。親の友だち作りの場となるよう、親子の関わりを中心とした場の提供となるようにする。又これをきっかけに入園希望にもつながるように対応する

5. 障がい児保育について

- 障がいを子どもの個性と捉え、子どもの状況をしっかり把握し、集団の中で共に育ち合うことが出来るように保育を進める。
- 研修を積極的に受け理解を深める。障がい児保育は全ての保育の原点となることを意識しながら保育を進める。
- 障がいの認定を受けていない子どもの中にも気になる子どもがいるので、全職員でしっかりと関わりを持ちながら保育を進める。
- 家庭の痛みを共有し支えていく。

6. 待機児童の対応

- 定員（90人）を超えて受け入れる。
- 措置児以外に一時保育等での受け入れをする。
- 行政にも働きかけ処遇の向上を求める。

7. 安全管理の周知徹底

- 職員の安全管理の周知徹底をする
- 園舎遊具等の安全点検を行い、修理等速やかに対応する
- 地域との交流を深め、地域パトロールに感謝する。

8. 地域に根ざす

- 地域との交流（小学校、子供会、婦人会との交流）
- 地域行事への参加（風の家 of 積極的利用・公園清掃の協力・もちつき参加）
- 園庭開放・育児相談の実施

9. 実習生・ボランティアの受け入れ

- 頌栄短期大学・松蔭女子学院大学・神戸医療福祉専門学校 等
- トライやる・体験学習の受け入れ（中学校・高校）

10. 連盟（私立保育園・キリスト教保育園）の研修、子育て支援への参加

- 保育理念、技術、保育の動向を学ぶ。
- 子育て支援講座、公開保育等の支援・協力を行う

保育園

事業目標

1. 保育の理念・計画（新保育指針施行）
2. 保育士の資質向上
3. 保育参加
4. 園庭開放
5. すこやか保育児の保育について
6. 待機児童の対応
7. 安全管理の周知徹底
8. 児童館と共存して地域に根ざす
9. 実習生・ボランティア・ワークキャンプの受入
10. 連盟の子育て支援への参加

事業計画

1. 保育の理念、計画

- キリスト教保育の遵守をする
- 子どもの権利と幸福と、親の希望を見据える目を持つ
- 子どもが心身共に楽しく過ごすことができるように見守る
- 保育園の保育理念の確認と、共通理解を持つ

2. 保育士の資質向上

- 自然の移り変わりを敏感に感じる感性をもつ
- 日常の生活を通じて子どもの鏡になるよう努力する
- 専門性の向上、積極的な研修参加、技術の向上を目指す
- 子どもと日々かかわりをもつ事が幸福、楽しいと思える保育士になる
- キリスト教保育の実践者としての自覚を持つ

3. 保育参加

- 保護者へ行事だけでなく、通常保育にも参加を呼びかけ、保育内容の理解、他児との関係性などにも気づいてもらうようにしたい
- 家庭保育の参考になるよう、保護者との話し合いの場を多く持つ

4. 園庭開放

- 地域の子育ての発信地として、子育ての方法や支援を行う
- 子育て支援の一環として、親同士のコミュニケーションを取りながら楽しい時間が過ごせるよう場の提供をする

5. すこやか保育児の保育について

- 障がいや子どもの個性と捉え、子どもの発達状況をしっかり把握し、集団の中で共に育ち合う喜びができるように保育をすすめる
- 研修の場に自ら積極的に参加し理解を深める。すこやか保育は全ての保育の原点となることを再確認しながら保育をすすめる
- すこやかな認定を受けていない子どもの中にも、気になる子どもがいれば全保育士がしっかり関わりを持ちながら保育を進める
- 家庭の痛みを共有し支えていく

6. 待機児童の対応

- 定員（90名）115%までの受け皿を常に意識におく
- 措置児以外に一時保育等で受け入れる
- 行政にも働きかけ処遇の向上を求める

7. 安全管理の周知徹底

- 職員の安全管理意識を周知徹底する
- 地域（自治会等）との交流を深め、地域パトロールなどに参加する

8. 児童館と共存して地域に根ざす

- 地域との交流（児童館、小学校、中学校、子供会、婦人会）
- 地域行事へ参加する
- 園庭開放、育児相談の実施

9. 実習生・ボランティア・ワークキャンプの受入

- 大学・専門学校からの保育実習を受け入れる
- トライやる・ワークキャンプ（体験学習）などを受け入れる

10. 連盟子育て支援への参加

- 神戸市市立保育連盟・キリスト教保育連盟・聖公会保育連盟などの研修や子育て支援への参加
- 保育理念、技術、保育の動向を学ぶ
- 子育て支援講座、公開講座等の支援や協力を行う

事業目標

1. 高齢者総合福祉施設としての円滑な開所
2. 財政基盤の確立
3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開
4. 職員体制の確立

事業計画

1. 高齢者総合福祉施設としての円滑な開所

- 2010年6月1日の開所を目指し、法人のスケールメリットを生かしながら、円滑な開所に繋げていく。
- 小規模多機能ケアのパイオニアであるオリンピア兵庫をモデルにし、より地域に密着した高齢者総合福祉施設を展開していく。具体的には、小規模型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業、居宅介護支援事業所が連携し、高齢者が住み慣れた地域で暮らせる支援を実践していく。
- 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くし、地域から求められる高齢者総合福祉施設を開所する。

2. 財政基盤の確立

- 2010年度事業所予算（129,610千円／年）を達成するように努める。
- 開所3年目に各部門とも稼働率100%を目指す。
- 安定した経営を行う為、開所3年前から関わり続けてきた地域との連携を更に深め、オリンピア神戸西ならではの独自の広報展開を強化していく。具体的には、地域の諸行事への積極的な参加、特に隣接機関、児童館、公民館、保育園、幼稚園との協働による異世代間交流を実践し、地域密着事業の新たな運営並びに実践を開拓していく。

3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開

- 八代斌助主教の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」をキーワードに置き、キリスト教精神に基づく愛の実践を行う。
- パーソンセンタードケアを学び、利用者一人一人に寄り添う介護を行う。
- 地域交流センターを活用し、地域に開かれた施設の展開と世代を超えて誰もが一緒に楽しめる空間を提供することにより、心の架け橋を担える事業運営に挑戦していく。具体的には、栄養士による一般向け食事講習会、各種予防教室（体操教室、音楽療法教室）等の実施と組織できる職員の養成。一般向け喫茶、演奏会、ボランティア手芸教室等の開催に協力し、多種多様な人との交流を作る。
- 環境を生かした異世代間交流を通して、地域との架け橋に繋げる。具体的には、屋上緑化を隣接児童館の子供達と取り組み、年代を超えて一緒に楽しめる環境を提供し、様々な人が出入り出来る事業展開を実践していく。

4. 職員体制の確立

- 「オリンピアの理念」「オリンピアの3つの約束」を周知・徹底する。
- 自分の身内を思いやるような感覚で利用者を迎え、感動を覚える実践をする。
- オリンピア神戸西を必要とされる方に1日も早く安心して生活を送って頂けるよう、各人の資質の向上に努め、プロとしての意識を高めていく。
- 心からのもてなしを通して、言葉に出ない要望に応えられるよう、日々の実践からの学ぶ謙虚な姿勢を育んでいく。
- 「スピード&チャレンジ」の姿勢で、何事にも諦めず、挑戦し続け、職員が一丸となって、高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西を作っていく。

小規模型特別養護老人ホーム

事業目標

1. 安心できる生活の確保
2. 財政基盤の確立
3. 職員体制の安定

事業計画

1. 安心できる生活の確保

- 2010年6月1日の開所により、新設の建物に初めて入所という期待と不安を抱えた入居者に配慮した受け入れ体制を実践していく。
- 理念を遵守し、「生活の主人公は利用者ご本人です」ということを念頭に置いたケアを実践し、ユニットケアのビジョンを明確にし、「生活の場」にふさわしい環境作りを展開していく。
- 入居者お一人お一人をよく知る。具体的には、普段の生活状況だけでなく、生活歴を知る情報収集も徹底し、一日も早い馴染みの関係を繋げていく。
- 日本の四季を感じ、和みのある拠り所を担える空間作りを実践していく。

2. 財政基盤の確立

- 初年度で稼働率が95%になるよう入居者の獲得を目標とする。
- 利用収入目標 77,060千円。
 - 目標 平均要介護度 3.5～3.8。
 - 介護保健収入 5,800千円。その他収入 19,060千円。

3. 職員体制の安定

- 開所までの残された期間、法人内の他部門で研修し、パーソンセンタードケアを学ぶ機会を持つ。
- 職員数の確保。非常勤職員の現地採用の実施。
- 定期的な広報活動を実施し、円滑な事業運営を行うべく体制を構築していく。

- 法人のスケールメリットを生かし、入居者お一人お一人に役割や責任持って頂く、運営を学ぶ研修の機会を持つ。

小規模多機能型居宅介護

事業目標

1. 新しい事業を地域に定着させる
2. 財政基盤の確立
3. 職員の教育

事業計画

1. 新しい事業を地域に定着させる

- 2005年の制度改正により、新たに地域密着型サービスの一つとして制度化された事業のため、事業内容を説明する機会を定期的に持つ。
- 小規模多機能型居宅介護支援事業という事業自体が認知度が低い。しかしながら、住み慣れた地域で生活して行くには非常に便利な制度である。これまでの開設準備期間3年間を通して培ってきた地域との関係を生かし、オリンピック神戸西ならではの独自の開拓を実践していく。
- 季節を感じ、予定地の環境の良さを引き出せる活動内容の展開をする。
- 高齢者の生活の充実を求める声に耳を傾け、新しい事業を通して、地域とのコミュニケーションの機会に繋いでいく。
- これまで実施してきた事業内容の説明会を事業開始後も継続していく。

2. 財政基盤の確立

- 初年度で、稼働率の80%の登録者数の獲得を目標とする。
- 利用収入目標 45,770千円。
 - 目標 平均要介護度 2.0~2.5。
 - 介護保健収入 36,200千円。その他収入 9,570千円。

3. 職員の教育

- 2005年の制度改正により、新たに地域密着型サービスの一つとして制度化された事業のため、神戸市内でも事業所数が30に満たない。その為、事業内容とケアの展開についての認知度が低い。開所までに、非常勤職員も含めての研修の機会を持ち、開所後も事業の実践を通して、必要なケアを学ぶ機会を定期的に研修をする機会を持つ。
- 事業内容は、住み慣れた地域で、顔馴染みの職員による24時間365日対応のサービスを提供する事業で、「通い」のサービス、「泊まり」のサービス、「訪問」のサービスを1事業所がすべて担う登録者25名に対しての事業で認知症のある方は勿論、無い方にも在宅での生活を支援する心強いサービスと言われている。しかしながら、事業内容自体に対して、多機能な職員が必要と先入観をもたれてしまう弱味もある。「小規模多

- 機能ケア」のパイオニアであるオリンピアの強みを生かし、事業展開を創意工夫にし、職員の不安を解消する事業への取り組みに対しての教育の機会を充実させていく。
- 法人のスケールメリットを生かした関わりにより、神戸市のNO.1の事業所を目指す。

居宅介護支援事業所

事業目標

1. 高齢者の相談窓口として、位置付けの定着
2. 財政基盤の確立
3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開

事業計画

1. 高齢者の相談窓口として、位置付けの定着

- 公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とネットワークを構築していく。
- 他部門との協力、多職種協働により、高齢者をはじめとする地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりを継続していく支援を担える独自性のある事業展開を実践する。
- 専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。
- 施設予定地の自治会圏域内に同業のえがおの窓口が全くないため、介護保険の相談窓口としての位置付けを早急に獲得出来るよう体制を整えていく。

2. 財政基盤の確立

- 初年度で、担当介護支援専門員を1名から2名に登録者数を増やすところまで増やした上での稼働率の75%の登録者数の獲得を目標とする。
- 利用収入目標 6,780千円
→目標利用者数 内訳 要介護者 70名 要支援者 16名

3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開

- 6月1日の開所前に、遺跡発掘調査時期から借りていた現地事務所を利用して、居宅介護支援事業所のみ、3月1日より開所する。
- 開所準備期間を通して培ったネットワークを生かし、また、少しでも地域との接点を深めるため、高齢者に関する様々な相談に柔軟に対応しく。
- 地域包括支援センターの関わり方のノウハウを生かして、民生委員や友愛訪問奉仕員等の地域のボランティアとの繋がりを構築していく。
- 困難事例への積極的な関与により、住みやすいまちづくりに積極的に携わっていく。
- 介護保険の最初の窓口である、居宅介護支援事業所が積極的に地域と関わることにより、高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西の事業展開を拓けていく架け橋を担っていく。